

万里夢

NPOえん ニュースレター “まりーむ”

NPOえんは、まちづくり・女性のキャリア実現・市民活動をサポートします。

何をもって平等と言うのでしょうか？

理事 阿部 名保子

最近、子育て支援と社会保障制度などの議論を聞くたびに、何をもって、平等と言えるのだろうかと考えてしまいます。若い政治家や市民活動家からは、高齢者が優遇されてきた、高齢者の医療費は現役世代が払っている、子育ては負荷が大きいから少子高齢化になるんだなどの声が大きくなっています。このような議論は、様々な属性間、若者と高齢世代、未婚と既婚、子供の有無などの分断を生むだけで、何ら解決になっていない気がします。

この背景にあるのが、多くの人が感じる生きづらさであり、安心できる社会システムを創れなかった政治と、社会問題を我が事と考えてこなかった意識の低さにあるのではないのでしょうか。昨今の投票率の低さ、私の住む町の首長選は、僅か20数パーセントで、得票率が足りずに2回も選挙を行いました。この理由は、生活の余裕のなさなのか、政治への無関心なのかもあるでしょうが、最も大きい要因は、政治への諦めかもしれません。

現在、少子化という危機的状況を踏まえ、児童手当の拡充や様々な無償化等の子育て支援に力を入れていますが、果たして少子化は好転するのでしょうか。全ての人に均一な児童手当や全ての学校の教育費の無償化が、平等と言えるのでしょうか。そして、これらの子育て支援を実施するために、社会保険料や税金を増やすことが、平等なのでしょうか。また、金銭的なことだけが、少子化の要因なのでしょうか。子育て世代はいつまでも子育てをしているわけではなく、子育てが終わると、親の介護が待っています。介護保険という制度によって、在宅から社会全体での介護に変えることができました。今後、高齢者の医療費の3割負担や介護サービスを減らすことが、安心できる社会につながるのでしょうか。

また、子育て支援を金銭的負担のみの議論に終始していますが、保育問題が落ち着いてきた次は、給食費や副教材の無償化などではなく、公教育の充実ではないのでしょうか。自治体によっては、塾代の負担を支援するところもありますが、そもそも塾に行かずとも、基礎学力が身に付き、のびのびと子どもたちが成長できる教育環境の整備が重要ではないのでしょうか。アメリカの教育では、最大でも25人の生徒で1クラスが構成され、一人ひとりに合わせた学習プログラムが行われています。今、不登校が問題になっていますが、その要因を把握せずに、分離化を進めています。学校教育の在り方そのものを考える必要があるのではないのでしょうか。そのためには、担い手である教員の質の向上と量の確保に、予算を投入してもよいのではないのでしょうか。

政治家はポピュリズムに走り、ここ数年は、所得制限を撤廃したバラマキ型サービスを進めています。でも、失業や病気で低所得の人と、ダブルインカムの高収入の人のサービスを同じにすることが平等なのでしょうか。政治家の役割は、バラマキではなく、社会システムの改善ではないのかと、諦めずに答えを探していきたいです。

定期総会開催のお知らせ

NPOえん 第25回定期総会を下記の通り開催します。

■日時 2024年6月15日(土) 13時～15時

■場所 多世代交流ひろば『パルひろば辰巳』及びZoomオンライン

	目	次	
巻頭寄稿	1	研修会実施報告	3
多世代交流ひろば「パルひろば辰巳」報告	2	NPOえん 活動報告・予定	4
NPOえん 自主事業報告	2		

多世代交流ひろば事業 パルひろば辰巳の報告

ひろば企画

【椅子ヨガ】

リピーター様がほとんどという椅子ヨガは、毎回皆さん集中して取り組んでくださり、お身体の良い変化を感じてくださっている方も多いようです。齊藤先生の雑談も楽しみの一つ♪

【ママヨガ】

ベビーを連れてママたちからは、『こういった場は本当に助かる!』というお声も。昨年9月からリスタートし、リピーター様多数で定着しつつあります。ヨガ後も和気あいあい、交流の場となっています。

【助産師さんに聞こう!】

助産師小島ちあやさんが毎月をテーマを変えて、遊び方・育児復帰・卒園入学といった月毎に旬な話題でお話してくださっています。

【登録団体活動】

絵習字 あじさい

毎月の活動を皆さん楽しみにされているあじさいのメンバー。1月は活動後美味しいお弁当を食べながら新年会。皆さんの楽しそうなお声がひろばに響いていました♪

うたおう会

1月～3月は寒いからということで1月1回開催でしたが、メンバーさんたちは、好きな曲をリクエスト、菊地さんのギター演奏で歌える時間を楽しんでいました♪

輪投げ大会

昨年11月からひろばに導入された『輪投げ』。ストレッチで体をほぐしてから、2チーム対戦で2ゲーム行いました。皆さん盛り上がり、最後に外してしまった方は悔しい、もう一回!とリクエストも。



自主事業

えんカレッジ講座開催状況

女性のキャリアと健康づくりを目的にしたえんカレッジの開催状況です。

iPhone講座

iPhone のカメラ機能について、おしゃれな写真撮影、自撮り、編集などについて学びました。講師はスマホドクターの富岡珠希さん。各種アプリの紹介から始まり、後半では実際に写真の加工や編集を試してみました。



親子クッキング

春休み期間中に、親子対象のクッキング講座を開催しました。講師は山本瑞恵さん(株式会社WillFun) お米と野菜のパンケーキミックスを使って、黒豆ココアのバナナケーキを作りました。食育やお手伝いの上達に繋がるいい機会になりました。



朗読講座

キャスターと楽しく学ぶ朗読講座は3月から開講中。講師はキャスターとして30年以上活躍し、更に現在はブックカフェをオープンした橋谷能理子さん。毎回朗読題材を読み上げるワークも楽しみのひとつです。



オレンジカフェ

認知症のご家族の介護の悩みやご自身の健康についても専門職や地域のお仲間にご相談・交流ができます。毎月第3金曜日(原則)開催しています。会場:多世代交流ひろば「パルひろば辰巳」
14:00~15:00 ミニ講座
15:00~ 交流会

毎回テーマを変えてミニ講座をおこなっています。
4/19(金)『音楽で認知症予防~オカリナ~』
5/17(金)『季節の養生法』
6/21(金)『口腔の健康講座』(予定)

2023年度 えん研修会

「災害時に、家族の命と健康、本当に守れますか？ ～高齢者・障害者・子ども・女性などの視点から～」

講師：浅野 幸子さん

減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表
早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員
専修大学社会科学研究所 客員研究員

【略歴】

阪神・淡路大震災に際して学生ボランティアから国際協力N G Oのスタッフとなり、在宅避難者・仮設住宅・全焼地域の復興まちづくり協議会の支援などに4年間従事。その後、(財)消費生活研究所、全国地域婦人団体連絡協議会でそれぞれ事務局・研究員として勤める。この間、働きながら法政大学院修士課程修了(政策科学修士)。2011年6月に発足した東日本大震災女性支援ネットワークの活動に参加。2014年4月より、後継団体である、減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表。主な分野は地域防災。ここ数年、年間100前後の防災講演・講座・研修を各地で行っている。



2024年2月24日(土) 13:30～15:30 パルひろば辰巳にて2023年度えん研修会を開催しました。今年度は地域防災・ジェンダーといった今多くの方に必要とされる分野について、浅野幸子先生をお招きし、地域の方々も交えワークショップ形式で行いました。

誰も助けに来てくれないという意識をもって

講師1名、地域の方11名、理事・会員5名、江東区議会1名、スタッフ2名合わせて20名が参加しました。能登半島地震がまだ記憶に新しいということもあり、皆さま身近な事・自分事という意識で真剣に先生のお話を聞いていらっしゃいました。まずは、備えや日頃の意識として大切なのは『誰も助けに来てくれない』という可能性があるという覚悟をしておくこと。室内の安全対策をしっかりと、備蓄は最低1週間分。非常食では浅野先生のお勧めは“おかゆ”だそう。避難所などで配給される食料の中には高齢者や障害者、小さなお子さまが食べにくいものもあるという中で、そのまま食べられるおかゆは便利だとか。また、物資は在宅避難者になかなか届かないという現状があり改善が必要な問題となっているそう。

トイレ問題、女性・高齢者・障害者には特に深刻

能登半島地震でも問題視されている給水排水の復旧に時間がかかったという点。特に排水に関しては深刻だそうです。やはりトイレの衛生環境を保つことは難しく、感染症が広がりやすい状況。また、特に女性は、トイレに行くのがつらくなり、水分摂取を我慢する傾向にあるためにエコノミー症候群や膀胱炎のリスクが高まります。膣炎・外陰炎になる人もいたそうです。防災用のトイレは各自での備えが大切、先生は箱で購入しているとか。普段から防災トイレなどを入れた『防災ポーチ』を作って持ち歩く習慣も勧めていらっしゃいました。

支援する側も男女両方の視点が必要

災害対策を考える段階から意思決定に女性の参加が少ないという現状があり、避難所といった災害現場においても男性が主に指揮を取る場合が多いとのこと。女性は物資配布に関わる人が男性だと、下着や生理用品といったものを受け取りにくいことがある。避難所でのプライバシーの確保や、育児・介護しやすい空間の整備が遅れてしまう。男性もまた、仕事や組織の責任が重くのしかかり、過労傾向になる場合もあるということです。なお、男女別の配慮は絶対に必要であるが、男女問わず使えるトイレ、更衣室、シャワー施設も必要ということでした。たとえば、避難所に避難していた重度の知的障害があり入浴介助が必要な成人男性とその母親が、男女別のお風呂しがなく、入浴ができなかったという事例もあったそうです。

普段からの“つながり“によって救われる命がある

避難所においては、例えば車椅子に乗った人の段差の移動、アレルギーを持った子どもの食事…といったさまざまな状態・条件をもった人の問題が出てくるもの。こういった問題については、当事者から直接アドバイスをもらう、当事者同士がチームを作って協力しながら運営していくといった『一緒に考える』といった支援が大切。また、普段から地域の方とのつながりを作っておくことで、災害が起こった時に『あそこには移動が困難な人がいる』といった情報を共有することができ、それによって救われる命があるかもしれない、実際にそういった事例もあげて説明していただきました。組合員同士、パルひろばを通じての余暇活動、そういった人と人との“つながり”が災害においても重要となるようです。

NPOえん第97回理事会報告

「NPOえん第97回理事会」は2024年3月5日(火)、役員4名の出席を得て、パルひろば辰巳において10時30分より開催しました。議決事項は以下のとおりです。

- ①事業報告
- ②会計報告
- ③万里夢内容と締切

全案承認されて、11時50分に閉会しました。

編集後記

2024年は元日に能登半島地震が起こり、災害は人々の都合に関係なく、いつ起こるかかわからないということを改めて感じました。2023年度研修会で地域の方々とともに地域防災について学ばせていただき、浅野先生から過去の災害で実際にあった事例をご紹介いただく中で、やはり最後は日常からの『人と人とのつながり』が大切、このつながりによって救える命があるのだと実感しました。また、えんの活動や『パルひろば』はそういったつながりを培っていくことのできる場であり、この場を活かしていくことの重要性を感じる機会ともなりました。(折居 由加)

NPOえんは、こんな支援ができます！

◎女性のためのキャリアサポート

「えんカレッジ事業」を始めとした、女性のキャリア作りのお手伝い。

◎まちづくりサポート

地域の多世代交流ひろばの企画運営、市民活動への提言活動

NPOえん会員募集中

- 年会費 個人：1口3,000円(何口でも)
- 団体：1口3,000円(2口以上)

【お振込み先】

ゆうちょ銀行 ○一九支店 当座0061621
中央労働金庫 亀戸支店 口座番号 5339909
口座名：特定非営利活動法人エヌピーオーえん

■NPOえん会員状況(2023年10月15日現在)
会員数35名

(正会員数18名/賛助会員17名(内団体4))

■ボランティアも募集しております。

詳しくは事務局までお問合せください。

編集/発行 特定非営利活動法人 NPOえん

〒135-0053 江東区辰巳1-1-34

Tel&Fax:03-3522-0302

E-mail: info@npo-en.com

HP: www.npo-en.com/npo.en.japan



NPOえんの活動	
1月	7 万里夢99号発行
	12 椅子ヨガ
	16 椅子ヨガ
	19 オレンジカフェ(会場)
	23 えんカレッジ iPhone講座
	輪投げ大会
	26 椅子ヨガ
	30 ママヨガ
2月	2 椅子ヨガ
	9 椅子ヨガ
	16 オレンジカフェ
	20 椅子ヨガ
	24 2023年度研修会
	27 ママヨガ&助産師さんのお話会
3月	1 椅子ヨガ
	5 第97回理事会
	15 ママヨガ&助産師さんのお話会
	15 オレンジカフェ(会場)
	19 えんカレッジ 朗読講座①
	22 椅子ヨガ
	29 親子クッキング
活動予定	
4月	2 えんカレッジ 朗読講座②
	12 椅子ヨガ
	15 万里夢 100号発行
	16 えんカレッジ 朗読講座③
	19 オレンジカフェ(会場・Zoom)
	19 ママヨガ&助産師さんのお話会
	23 椅子ヨガ
5月	17 オレンジカフェ
	21 第98回理事会
6月	15 第25回定期総会
	21 オレンジカフェ



ママヨガ
&助産師さんのお話会